

令和6年度 アクションプランの重点目標、数値指標および方策

《プラン1》学習指導（知）	
課 題	家庭学習時間が少なく、課題等に積極的には取り組めていないと思う生徒が多く、活字に触れたり授業で学んだことを振り返って次につなげたりする機会が少ない。
対 策	学活ノートを活用して、習慣としたい毎日の学習時間帯に家庭学習が実施できたかを振り返らせる。
重点目標	主体的に学習に取り組む意欲を育むための家庭での学習習慣の定着を図る。
数値指標	「家庭で学習する習慣（タブレット学習、通信教育、学習塾、読書を含む）が身に付いている」と答える生徒の割合を80%以上にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平日、休日の生活時間について日程表（学期ごとに記入）を作成し、家庭で学習する時間帯を設定させる。 ・ 学活ノートの「時間割表」のページに、毎日の生活時間を示す上記の表を貼らせる。 ・ 計画した生活時間に合わせて、計画した時間帯の中で学習できたかを毎日振り返らせる（学活ノートの「学習時間」欄に、計画どおりできたら「○」、計画と違ったが学習できたら「△」で時間数を囲んで記入させる）。 ・ 振り返りを蓄積することで、学習習慣の改善や定着につなげさせる（保護者にも記録を見ていただくように依頼する）。 ・ 担任が学活ノートの点検時に確認を行い、個別に家庭学習への指導・助言を行う（学習できなくて記入が「×」だったり、未記入だったりした生徒には適宜声をかけ話を聞き、具体的な取組例を示す）。 ・ 各学期に最低1回、学活や学年集会等で家庭学習の意義や仕方について指導する。 ・ 学習委員会から、家庭学習の取組とよいノートの取り方の例を紹介したり、各種コンテストを実施したりする。 ・ 図書委員会からお勧めの本を紹介する。 ・ 学年と教科が連携して適切な量の課題を出し、家庭学習を推進する。 ・ 保護者への取組の周知と家庭での協力体制づくりのため、学年たよりやホームページ等に取組状況を掲載したり、懇談会で生徒の生活実態を知らせたりする。

《プラン2》生徒指導（徳）	
課 題	生活態度や学習規律は良好であるが、心配事や悩み等を抱えていたり、学校生活を楽しいと思えなかったりする生徒がいる。
対 策	積極的な生徒理解と生徒指導を基盤とし、道徳教育を中心に、思いやりの心をもつ生徒の育成を心がける。また、話し方、聞き方のルールの取組やSSTの実施の充実を図る。
重点目標	『思いやり』の項目を基盤として、生徒の道徳性向上を目指す。
数値指標	「周りの仲間と協力し合ったり助け合ったりして、温かい雰囲気の中で学校生活を送っている」と答える生徒の割合を90%以上にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手を尊重し、仲間と高め合おうとする態度を育てる。 ・学年道徳やローテーション授業、ティームティーチング等の実施により学級、学年の枠を超えた新しい出会いのある授業をすることで、豊かな心を育む生徒を育てる。 ・学級活動、生徒会活動、学校行事や部活動等を通して、生徒が仲間と共に努力する場を共有することで、互いの自己有用感を高める。 ・生徒会（学級、学年を含む）を中心としたSNSの使い方についての取組を通して、画面の向こうにいる仲間を尊重し、大切にできる生徒を育てる。 ・学活ノートやいじめ悩み調査、教育相談や学級実態調査（Q-Uやi-check）等を通して生徒理解に努め、生徒の心に寄り添う関わり（教師と生徒のつながりを深める関わり）を積極的にもつ。 ・学活や道徳等、実施可能な活動を教員がローテーションで指導したり、個々に生徒と関わる機会を設けたりすることで、生徒が「この先生は話しやすい（助けを求めやすい）」というチャンネルをできる限り多く確保する。 ・生徒が援助希求能力（助けてほしいときに、助けてと言う力）を身に付けることで、より安心して学校生活を送れるように支援する。 ・年度や学期のスタート等の機会を生かしてソーシャルスキルトレーニング（SST）に積極的に取り組むことで、円滑な人間関係の構築を図る。 ・学年たよりやホームページ等を活用して生徒の活躍や頑張る姿を広く紹介し、互いのよさを実感できる場を多くもつ。

《プラン3》健康・安全指導（体）	
課 題	メディア機器の長時間使用が原因で、就寝と起床時刻が遅くなり、日中に眠くなったりする生徒がいる。メディア機器の利用の中でも、特に長時間使用の弊害についての理解やルールづくりにおいて、保護者への働きかけの機会が少なかった。
対 策	生徒会の各委員会活動、学活ノートの活用や家庭での話し合いをそれぞれ連携させ、生徒一人一人の望ましい生活習慣を確立させる。
重点目標	望ましい生活習慣を身に付けさせるための積極的な保健指導に努める。
数値指標	「毎日を健康に過ごすために、調和のとれた『食事』、適度な『運動』、適切な『休養・睡眠』をとっている」と答える生徒の割合を80%以上にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・とやまゲンキッズ作戦アンケートを実施し、生活習慣全般の見直しと改善を図る。（1、3学期） ・学校保健委員会や保健たより等を通して、『食事』と『運動』、『休養・睡眠』のバランスのとれた生活習慣の推進を図る。 ・学習や睡眠、メディア機器使用時間等、自分の時間の使い方を見直すため、生活チェックを実施する。また、その生活チェックでは事前に家庭で目標決めしたり、チェック週間後に保護者にコメントをもらったりして、家庭と連携を図る。（7月、12月） ・熱中症予防のための生活チェック週間を設ける。（9月） ・給食委員会（生徒会）で朝食の大切さを呼びかけ、家庭と協力しながら食生活の見直しと改善を図る。 ・生徒会が作成している「メディアルール『なめりかわ』」と連携して、スクリーンオフ 22を呼びかける。 ・学活ノートに毎日、起床・就寝時刻と朝食の有無を記入することにより、継続的に健康的な生活を意識させるとともに、個別指導の機会とする。 ・家庭と連携を図るため、ホームページや学年たよりで取組をお知らせする。